

2022

# 国語

## 注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年生のヒデトが通う学校では、「弁当の日」という、子どもが自分でお弁当を作って持ってくる日が設けられた。しかし、弁護士の父と専業主婦の母を持つヒデトは、中学受験に向けて宿題や塾じゅくに明け暮れていた。

ヒデトには、これまで料理はおろか、勉強以外のことをほとんどやらせてもらった記憶きおくがない。お母さんにスケジュールはきっちり管理されていて、何かやりたくても、そんな時間はどこにも見当たらないのだ。だから、調理実習でみじめな思いをしたのも当然といえば当然だった。

まな板のに載せられたキュウリとピカピカ光る包丁を見て、ヒデトはひるんだ。先生に命じられた「薄切りうすぎ」どころか、包丁なんてこれまでさわったこともない。こんなに大きな刃はなんだから、野菜だけじゃなく、きっと指だつてよく切れるはずだ。人が出血多量で死んでしまうのは、何リットルの血が流れたときだっけ……？ そんなことを考えているうちに、どんどん腰こしが引けてくる。隣のテーブルを見ると、ケイタが目にも止まらぬ包丁さばきでみんなの喝采かつさいをあびていた。積み上がっていくキュウリの山は、向こうが透すけて見えそうに、一枚一枚が薄い。

慎重しんちょうに慎重に、ヒデトがやつとの思いでキュウリを切り終えたのは、もちろんクラスで一番最後だった。みんなができあがったキュウリの厚さをミリ単位で競い合っている中、ヒデトのそれは「筒切りつづぎ」とでも言ったほうがいい代物しろものだ。

① さすがに、このままじゃまずいかもしれない。

だけど、家に帰って復習するなんて絶対許してもらえないから、二度、三度と調理実習を重ねても、いっこうじょうきょうに状況は変わらない。自分以外のみんなが着実に腕うでを上げていくように見えて、ヒデトはあせっていた。

一方、お母さんのほうはクラスメイトのお母さんたちと話をするたび、

『『弁当の日』は親が作ってやる』ことが、親の責任だし愛情表現だ』

という持論aを触れ回ふっている。

「子どもがひとりで作れるはずないのはわかりきっているでしょ」

「どうせ、親が作った弁当の品評会になる」

「正面切って反対すると先生に悪い印象を与えるから、そこは目立たないように」

「でも、受験勉強第一の姿勢はゆるがせない」

……と、② 我が意を得たり、のリアクションをかき集めて、ひとりで弁当作りをする子はほとんどいない、だから自分の作った弁当を持たせてもヒデトが孤立することはない、とすっかり信じきっているようだ。

(中略)

夏休みは、例年のように塾の夏期セミナーや集中講座と、勉強漬けで終わった。初めての「弁当の日」も、前日の夜遅くまで塾の宿題をしていたから、弁当作りはノータッチだ。

ヒデトがお母さんの作ってくれた弁当を持って登校すると、教室の中は遠足の朝か、それ以上の盛り上がり方だった。

「弁当、作ってきたぞー」

「見て見て、おいしそうでしょ」

「すごいなー、お前の弁当！」

いつもならランドセルから教科書やノートを取り出すのが先だけど、今日はそんなのおかまいなしだ。みんなが弁当のふたを開けているから、教室じゅうにふんわりとおいしそうな匂いが漂っている。

ヒデトは、教科書を出しながら注意深くみんなの会話を聞いていた。

「ぜんぶ」作った、という声は、どこからも聞こえてこない。やっぱりみんな、家族に手伝ってもらったんだ――。

そのことに少しホッとしながら、でもなぜか、③ 心の片隅で起こっている胸騒ぎが抑えられなかった。提出した答案用紙に自分の名前を書き忘れていたような、正解は選んだのに解答欄を間違えてしまったような、嫌な予感がした。

教室に、はじける笑顔の子が多い。

弁当の見せっこをしている子のほとんどが、④ 宝物のように弁当の包みを抱え、見たことのないような笑顔で教室の中をウロウロしているのだ。ヒデトは、さらに耳をすませた。

A たまご焼きのたまごが上手に割れなかった。

お米をといいでいて、とぎ汁と一緒に米粒を流した。

ひとりで買い物に行つて、レンコンと長芋を間違えた。  
炊きたてのごはんでおにぎりを握ろうとして熱かった。

エビフライの油がはねてやけどしそうだった。

野菜炒めを作ったら、フライパンから野菜が何度もこぼれた……。

失敗談なのに、大声で、どこか自慢げに話すみんなを見ながら、やっと気づいた。

B——お母さんの読みは外れた。

たしかに、自分ひとりで弁当を作りきつた子は少なかつたかもしれない。だけど、みんな C「どこかで」弁当作りに挑戦している。  
ヒデトは、プリントの文面を思い出していた。

D 家族のだれかに手伝ってもらおうなんて思わないでね！

手伝ってもらったごうかな弁当より

自分ひとりで作った弁当の方がいいんだよ！

目的は「大人への一歩」だから。

ヒデトが持ってきた弁当は「手伝ってもらったごうかな弁当」、いや、「作ってもらったごうかな弁当」なんだ。はじける笑顔の友だちは、今朝持ってきた弁当に、「自分ひとりで作った」何かがある子なんだ。

一時間目は、みんなが自分の作った弁当を紹介する授業だった。

初めての「弁当の日」のテーマは「スタート弁当」だ。黒板には「ぼくとわたしの、大人への一歩」という E 大きな文字が躍っている。  
先生に名前を呼ばれると、ひとりずつ教卓の前でふたを開け、もったいぶって話し始めた。

「私はハンバーグを焼いてきましたー。少し焦がしちゃったけど」

「ぼくはギョウザを作ってきました。なんと、皮から手作りです！」

失敗気味のものから完成度の高いものまでいろいろあったけど、とにかくみんなの顔は、自分が作ったこと、料理に関わったことがうれしくて仕方ない、という感じだ。

ヒデトは、それを聞きながら半分泣きそうになっていた。

弁当箱をハンカチで包むことさえしなかった自分が恥ずかしい。いっそ、うそをついてしまおうか。たまご焼きのたまごを自分で割ったとか、弁当箱にごはんを盛り付けたとか……。そんなことを考えていたら、どこからかお父さんの声が聞こえた。

——今大切なのは失敗しないことじゃなくて、失敗を生かす考え方や、失敗にくじけない強さを育てることや。勉強に忙しかったという言い訳もしたくない。

ヒデトは、意を決して教卓へ向かうと、大きく息を吸い込んで話し始めた。

「ぼくは、弁当を作るのは⑤子どもの仕事じゃないと思っていたので、ぜんぶお母さんに作ってもらった弁当です」

渋い色の漆で塗られた曲げわっぱの中には、きのこの炊き込みごはんにシヤケとマツタケのホイル焼き、めざし、ほうれん草のおひたしとミニトマトがおさまっていた。

「おー、マツタケが入ってるー。ヒデトんちは庶民と違うなー」

トンちゃんが歓声を上げ、教室じゅうにため息交じりの「おいしそう」が響く中で、ヒデトはうつむきがちに続けた。

「昨日の夜、お母さんに、炊飯器の予約スイッチを押さない、これであなたが弁当を作ったことになるから、と言われました。だからこれはへスイッチひとつ弁当」です。でも……、みんなの発表を聞いて、この次は自分で作ろうと思いました。そう思った今日が、ぼくのスタートです」

ヒデトが顔を上げ、おそろおそろの教室を見渡すと、寺西先生が声をはりあげた。

「⑥えらいぞ、ヒデト！」

みんながそれに続き、教室じゅうが拍手に包まれる。ほっとして席に戻ると、隣の女の子がかわいく拍手をして「ヒデトさん、かつこよかったあ」と言ってくれた。「ありがとう、近藤由紀さん」と、ヒデトは照れながら答えた。

ヒデトの発表は、授業の流れを変えた。それまでの子は自分がやったことをメインに話をしていただけ、あとの子は、今回できなかったことや次に挑戦したいことを宣言するような発表になっていったのだ。

午前中の授業が終わり、みんなが待ちに待った弁当の時間になった。

給食と同じように班ごとに机をくっつけて食べたけど、いつもと違うのは、すぐにおかずの交換こうかんが始まったことだ。みんなが「自慢のたまご焼き」とか、「ひと工夫のピーマンの肉詰め」とかおかずをリクエストし合っていて、少し肩身かたみの狭いせま思いでヒデトが弁当を食べていると、何人かの女の子がやってきた。

「ヒデトさん、私の手作りハンバーグときのこの炊き込みごはん、少しだけ交換してくれる？」

ヒデトはびっくりした。

ぼくの弁当はお母さんが作ったって、みんな知ってるはずなのに。

「おいしい。今度、お母さんの炊き込みごはんの作り方、教えてね」

「ヒデトさんの、次の『弁当の日』が楽しみ」

ヒデトはぎこちなく、けれど女の子たちの名前を必ず添そえて、「ありがとう」を言った。

——ぼくの周りに女の子が集まるなんて、人生で初めてだ。

交換でもらったハンバーグやポテトサラダはおいしかったけど、<sup>⑦</sup> なんだかくすぐったくてうまくのを通とらなかつた。

(竹下和男『お弁当を作ったら』による)

(注1) 筒切り：丸くて長い物を横に切ること。

(注2) 品評会：作品・作物などを集めて、価値や出来を評価する会。

(注3) 漆：ウルシ科の落葉高木から作られた塗料とりょう。

(注4) 曲げわっぱ：スギやヒノキなどの薄板を曲げて作られる円筒形えんとうけいの木製の箱のこと。

問一 波線部 a・b の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a  
持論

- ア 道理を無視したこじつけの意見  
イ 世間一般に認められている意見  
ウ 前から主張している独自の意見  
エ 事実を元に推測し導いた意見  
オ 極端にかたよった過激な意見

b  
肩身の狭い

- ア 自信がない  
イ 居心地が悪い  
ウ 理想から遠い  
エ 気が乗らない  
オ 余裕がない

問二 傍線部①「さすがに、このままじゃまずいかもしれない」とありますが、このときのヒデトの気持ちを四十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部②「我が意を得たり、のリアクションをかき集めて」とありますが、このときの母親の様子としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 学校が子どもに無茶な要求をしているという意見に共感している。  
イ 子どもが親を頼りにしていると決めつけ得意げになっている。  
ウ 子どもが弁当を作らなくても孤立することはないと確信している。  
エ 子どもは勉強を優先すべきだという意見に同意を求めている。  
オ 子どものことを理解していない先生に対して信頼を失っている。

問四 傍線部③「心の片隅で起こっている胸騒ぎが抑えられなかった」とありますが、それはなぜですか。六十五字以内で説明しなさい。

問五 傍線部④「宝物のように弁当の包みを抱え」とありますが、このときのクラスメイトの気持ちとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 家族が手伝ってくれたことをありがたく思い、お弁当を慎重に扱おうと用心する気持ち。
- イ 自分がお弁当作りに挑戦したことを誇りに思い、作り上げたお弁当を大切に思う気持ち。
- ウ お弁当を自分で作らなかった人に対し優越感を抱き、自分で作ったお弁当を自慢に思う気持ち。
- エ 自分でお弁当を作ったことに照れくささを感じ、見てほしさと恥ずかしさで葛藤する気持ち。
- オ お弁当を見せ合うことでそれぞれの家庭の違いを実感し、自分の家の味を特別に思う気持ち。

問六 波線部A～Eについて、それぞれの表現効果を説明した文としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア Aは具体的な描写を短い文で続けて羅列することによって、読者が一人ひとりの子どもたちに感情移入できる効果がある。
- イ Bは「――」の記号を用いて間を表現することによって、読者にお母さんの言葉を思い出す時間を与える効果がある。
- ウ Cはかぎ括弧を用いて強調することによって、お弁当作りに参加した子どもたちの強い自信を表現する効果がある。
- エ Dはプリントの文面をそのまま記すことによって、改めてヒデトの心に内容が入ってくる様子を表現する効果がある。
- オ Eはヒデトの視点を擬人法を用いて表現することによって、動揺する心理状態を文字と重ねて読ませる効果がある。

問七 傍線部⑤「子どもの仕事じゃないと思っていた」とありますが、ここでの「子どもの仕事」とは何だと思われますか。本文中から抜き出して答えなさい。

問八 傍線部⑥「えらいぞ、ヒデト！」とありますが、寺西先生はなぜヒデトを「えらい」と思ったと考えられますか。五十字以内で説明しなさい。

問九 傍線部⑦「なんだかくすぐったくてうまくのを通らなかった」とありますが、その理由として、不、適、当、な、も、の、を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア クラスメイトが作ったおかずをもらうかわりに、お母さんの作ったおかずをあげるのが気恥ずかしかったから。
- イ 自分はお弁当を作ったおかずがなかったというのに、女の子が自分に興味を示してくれたことがうれしかったから。
- ウ まともに話したことがない女の子に話しかけられ、普、段、通、り、にふるまうことができないほど緊張していたから。
- エ クラスメイトが自分を氣遣ってくれていることに気づき、それを素直に受け入れるのが照れくさかったから。
- オ 話しかけてくる女の子たちが自分からかかっているように感じ、言い返せない自分がもどかしかったから。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二〇世紀の前半、あるアフリカの村で、白人の衛生監視員たちが、村人たちに衛生の大切さを教える映画を見せた。上映後、監視員は、村人に「あなたたちは映画で何を見ましたか」とたずねた。監視員は「手を洗っているのを見ました」とか「服をきれいにしているのを見ました」といった反応を期待していたはずだ。ところが、村人から返ってきたのは「ニワトリを見ました」という答えだった。一人だけではなく、① みな同じことをいった。

監視員たちはとまどった。映画は衛生の大切さを説いたものであって、ニワトリとは関係ない。そもそもニワトリが映画に出てくるはずなどなかった。② いぶかしんだ監視員が注意深く映画を見なおすと、途中で、一瞬、画面の下をニワトリが横切る場面が見つかった。撮影現場のそばにいたニワトリが偶然カメラに映りこんでいたのだった。監視員たちは、このときまで、だれもそのことに気づいていなかった。しかし、村人たちにとって、この映画でもっとも印象に残ったのが、このニワトリだった。一方、③ 監視員たちが伝えたかった映画の筋については、村人はまったく理解していなかった。

この話は、無文字社会の人びとが映画の内容を理解できないことを伝えているわけではない。人は、自分たちの文化的な文脈の中にあるものしか見えないのである。われわれが映画を見てストーリーを理解できるのは、そこに使われている約束事を学習して理解しているからだ。たとえば、ドラマの中で男性の笑っている顔が映り、つぎに女性が照れている顔が映ったら、われわれは説明されなくても、二人が同じ

場所で見つめ合っているとわかる。それはふだんからテレビや映画を通して、そういう映像の文法に慣れ親しんでいるからである。しかし、そうした約束事を知らなければ、男と女の関係を結びつけては考えられない。監視員たちが上映した映画の中に、村人がニワトリしか見えなかったのは、唯一、ニワトリだけが村人の生活の文法で解釈できるものだったからである。

ありのままの世界は見えない

つまり「見る」には X が必要なのだ。これは人間も動物も同じである。動物行動学者のティンバーゲンは、セグロカモメのヒナは餌がほしいとき、親鳥のくちばしの先にある赤い点をつつくことを発見した。ヒナは親鳥をその全体の姿で認識しているのではなく、くちばし状の形とその先端にある赤い点として把握しているのである。それがヒナにとって、親を認識するために先天的にプログラムされた約束事である。この時期のヒナには、たとえ赤い印をつけた棒であっても親鳥に見えるのである。

どうしてセグロカモメのヒナは親を全体として見ないのか。それは逆のパターンを考えればわかる。視覚に入ってくるすべての情報を分析してから認識するとなったら、<sup>④</sup> とほうもない情報処理能力と時間が必要とされる。野生動物が、そんなことに時間をかけていては、自分の生存が危ぶまれる。そのため、いま生きるうえで必要な情報だけを取りだし、わかりやすくパターン化してイメージを作りあげているのである。

セグロカモメのヒナだけでなく、人間もほかの動物も、ありのままの世界や自然を、全体として認識しているわけではない。というよりも、ありのままの世界は、見たくても見ることができないのである。ありのままの世界とは、どこにも切れ目も境界もない連続体である。それは名づけようもなければ、認識しようも、<sup>④</sup> イないものである。

たとえば、われわれは人体を見て、ここは頭、ここは肩、ここは腕、ここは手首というふうに、それぞれの部位を認識する。それは「このあたりを腕とよぼう」「この辺は手首とよぼう」という約束事に基づいている。このような約束事をいっさいはずしてしまうと、どこまでが人間の体とっていいのかわからなくなる。皮膚は人間の体の境界といえるのだろうか。人間は鼻や皮膚から呼吸をしているが、その空気は体の一部ではないのか。体から発散される熱は体ではないのか。そんなふうに見ていくと、「人体」という概念も、一つの約束事だとわかる。こうした約束事をすべてはずしてしまうと、なにもかもがなくなってしまう認識のしようがない。

では、ありのままの世界とはどのようにイメージできるのか。それは生まれたばかりの赤ん坊や、先天的に目の見えなかった人が手術で目の機能を回復して、初めて目でものを見たときに感じる世界に似ているかもしれない。脳神経科医のオリヴァー・サックスは、そんな

患者が初めて自分の目で世界を見たときのことを書いています。そのとき患者は「なにを見ているのかよくわからなかった。光があり、動きがあり、色があったが、すべてがごっちゃになっていて、意味をなさず、ぼうつとしていた」と語ったという。

ふつうの人は、部屋を見れば、手前にテーブルがあり、その上に花瓶があり、その向こうに壁があり、絵がかかっている、といった関係性をすぐに把握することができる。しかし、その患者はすべては見えているのに、物や人の境界線、遠近感、関係などがわからず、色も形も動きもすべてがごっちゃにしか感じられなかったのだ。脳に信号は送られていたが、脳はそれらを意味づけることはできなかった。

「見る」とは送られてきた信号を脳が意味づけることである。先の患者が体験したような、すべてがつながってごっちゃになっている世界に、切れ目を入れ、約束事やパターンをあてはめ、自分にとって理解可能なものに変換することによって、初めて「見る」ことができる。生まれつき目の見える人は、このような作業を、生まれてからずっと行ないつづけている。「見る」とは学習である。文化や環境といった約束事にしたがって、目に入ってくる信号を関連づけ<sup>⑤</sup>「世界」をつくるのが「見る」ことである。ありのままの世界を、見ることはできないのである。

(田中真知『美しいをさがす旅によう』による)

(注1) 先天的：生まれた時から、その性質を持っている様子。

問一 波線部 a・b の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a いぶかしんだ

- ア 理解に苦しんだ  
イ 思いやりがあった  
ウ あやしく思った  
エ ひまを持って余した  
オ 情けなく感じた

b とほうもない

- ア 問題にならない  
イ きわめて遠い  
ウ ばくぜんとしている  
エ 並々でない  
オ 答えのわからない

問二 傍線部①「みな同じことをいった」とありますが、

(i) その状態を示した四字熟語としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 首尾一貫  
イ 単刀直入  
ウ 十人十色  
エ 千差万別  
オ 異口同音

(ii) なぜそうなったのか、本文中の語句を用いて説明しなさい。

問三 傍線部②「監視員たちは、このときまで、だれもそのことに気づいていなかった」とありますが、その理由としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア アフリカの村人たちとは違って、監視員たちにとってニワトリは珍しくもなんともない生き物だったから。

イ 映画の撮影時に、ニワトリは撮影する予定がなく、あくまで偶然に映りこんでしまっただけだから。

ウ ニワトリの映りこみが、指摘されなければ気づけないほどほんのわずかな一瞬の出来事だったから。

エ 監視員たちは映画を村人に見せることに気をとられ、自分たちで映画を見てはいなかったから。

オ ニワトリは映画の目的とは全くの無関係で、監視員たちにとって見るべき対象ではなかったから。

問四 傍線部③「監視員たちが伝えたかった映画の筋」とありますが、それはどのようなものになりますか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問五 空欄Xに当てはまる適当な言葉を本文中から探し、抜き出して答えなさい。

問六 傍線部④「いま生きるうえで必要な情報」とありますが、それはセグロカモメのヒナにとってはどのようなものになりますか。四十字以内で説明しなさい。

問七 点線部ア～オの「ない」のうち、ほかと用法が異なるものを一つ選んで、記号で答えなさい。

問八 傍線部⑤「『世界』をつくるのが『見る』こと」とありますが、「『見る』こと」がどうして「『世界』をつくる『こと』になるのですか。六十字以内で説明しなさい。

問九 本文の内容の説明として適当なものにはA、そうでないものにはBを、それぞれ解答欄に書きなさい。

- ア ありのままの世界を見るためには、文化や環境における約束事を身に付ける必要がある。
- イ 無文字社会においては、言葉で世界を区切ることができないため、見えないものが多い。
- ウ 何気なく世界を見ている、自分が属する文化や環境の影響を大きく受けているものである。
- エ 私たちが認識している「世界」とは、約束事によってつくられていると言いうことができる。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 日本の政治についてナイカクで議論が進められる。
- ② 運動は体に適切なフカをかけるとちよūdよい。
- ③ 料理を失敗するというヒゲキが起こった。
- ④ 青空にワタグモが見えると天気が悪くなる。
- ⑤ 街道にソって宿場町が発達した。



②×5	②×4	⑧	③	⑥	③	③	③	④	③	②×2	④	⑧	③	④	④	⑧	④	⑥	②×2													
①	問九	問八			問七	問六		問五	問四	問三	問二		問一	問九	問八			問七	問六	問五	問四			問三	問二		問一					
内閣	ア	の	こ	や	す	オ	て	、	棒	約	衛	オ	ii	i	a	オ	い	標	失	お	(	エ	イ	。て	の	た	み	エ	る	対	包	a
②	B	世	と	環	べ		く	生	状	束	生		村人の生活の文法で解釈できるものは ニワトリだけだったから。		ウ	た	を	敗	弁	受				い	の	わ	ん		自	し	丁	ウ
負荷	イ	が	境	に	が		れ	き	の	事	の				b	か	立	を	当	験	勉				る	、	け	な	分	、	を	b
③	B	で	界	よ	つ		と	た	端	文	大				エ	て	正	を	強						姿	そ	で	が	に	怖	使	
悲劇	ウ	る	設	約	が		い	め	に	法	切					失	に	っ							を	れ	は	お	焦	気	い	イ
④	A	た	け	束	っ		こ	必	い	パ	さ					敗	認	て							見	を	な	弁	る	づ	こ	
綿雲	エ	。れ	に	世			と	要	点	テ					を	め	こ								不	し	と	を	持	て	す	
⑤	A		、	界			。こ	な	が	文					か	上	か								安	そ	知	全	ち	後	ク	
沿(って)		自	し	を			エ	あ	る	脈					そ	で	っ								な	に	安	自	を	ス		
		分	て	、			サ	る	も	社					う	、	た								っ	見	心	分	取	メ		
		な	見	文			を	の	が	会					と	次	自								た	せ	し	で	っ	イ		
		り	る	化			与	の		環					し	の	分								か	合	た	作	て	ト		
							え	が		境					て	目	の								ら	っ	も	っ	い	に		

国語 解答用紙

注意 一字数制限の問題では、句読点も

受験番号	フリガナ	
	氏名	

得点	
----	--